



図書館だより

宇都宮市立陽北中学校
令和6年 10月号



ようやく過ごしやすい季節になりました。読書の秋です。先生方のおすすめ本を順次紹介していきますので、ぜひ、読んでください。また、10月23日には、合唱コンクールがありますね。音楽室や教室から素敵な歌声が聞こえてきます。今までの練習の成果を発揮してください。

令和6年度 前期 図書館ランキング

※本のリクエスト募集中！



☆貸出冊数☆

集計期間：令和6年 4月～令和6年 9月30日の期間

	1年生	2年生	3年生
1位	3組 483冊	1組 476冊	5組 184冊

ベストリーダー（全学年）貸出が特に多かった本です！

- ☆『羊と鋼の森』 宮下 奈都/著
- ☆『ナカスイ！海なし県の水産高校』 村崎なぎこ/著
- ☆『葉屋のひとりごと』 シーズ 日向 夏/著
- ☆『あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。』 汐見 夏衛/著
- ☆『成瀬は天下を取りにいく』 宮島 未奈/著
- ☆『かがみの孤城』 辻村 深月/著
- ☆『世界でいちばん透きとおった物語』 杉井 光/著
- ☆『わたしの幸せな結婚』 シーズ 顎木 あくみ/著
- ☆『神様のカルテ』 夏川 草介/著

※読みたい本がありましたら、「予約フォーム」で予約してください！教室まで届けています！



先生方のおすすめ本を紹介します！

図書館にある本は、請求記号を書きました。



後藤知行校長先生 『リラの花咲くけものみち』 藤岡陽子/著 光文社 913/フ

幼い頃に母を亡くし、祖母チドリに引き取られ、心の支えだった愛犬と暮らす中で、獣医師を目指すようになった主人公聡里が、北海道の獣医大学に進学し、大学生活、仲間やアルバイトを通して少しずつ強く、逞しく成長していく姿を描いています。好きな動物と向き合うとはどういうことなのか、主人公はそれをどう受け止め進んでいくのか、感動なくしては語れません。祖母チドリの存在の大きさ、おばあちゃん子だった私には、涙、涙の一冊でした。ぜひ読んで欲しい1冊です。

菊池美智代先生 『竜馬がゆく』 司馬遼太郎/著 文藝春秋 913/シ

土佐の郷土の次男坊にすぎず、しかも浪人の身でありながらこの動乱期に大仕事をなしえた。竜馬の劇的な生涯を中心に、同じ時代をひたむきに生きた若者たちを描く長篇小説。八巻まで。昔、読んだときはもっとあった気がしたけど・・・。
龍馬ではなく、竜馬の物語。

星野めぐみ先生 にちにちこれこうじつ 『日日是好日』 森下典子/著 新潮社 （購入予定）

みなさんは茶道を体験したことがありますか。この本は、茶道って変、茶道って退屈と思っていた作者が、そのよさに気付いて大好きになり、やがて茶道に宇宙の広さまで感じてしまうという物語です。私がこの物語を知ったのは、今は亡き女優樹木希林さんが出演していた映画が最初でした。映画館に行くと、会場には数名の中年の男女。映画が始まると一気に茶道の世界に引き込まれました。茶道あるあるのポイントで会場の皆が同時にクスクスと笑っていたのがとても楽しくて、小説も読んでみようと思いました。茶道は、歴史上の人物、織田信長、豊臣秀吉の頃から変わらない日本の文化です。ぜひ一度読んでみてください。

世古翔太郎先生 『チーズはどこへ消えた?』 スペンサー・ジョンソン/著 扶桑社 933/ジ

二匹のネズミと二人の小人が、迷路の中でチーズを探す物語。この“迷路”とはいったい何なのか・・・また、“チーズ”とは・・・。

短くシンプルな話ですが、人生において大切にしたいことが説かれています。

※大谷翔平選手も読んだとか・・・

大川仁海先生 『深夜特急』 沢木耕太郎/著 新潮社（購入予定）

『十二国記』 小野不由美/著 913/才 新潮社 『夏の庭』 湯本香樹実/著 新潮社 913/コ

どこかに行きたい。どこにも行けない。授業中、突然知らない人がやってきて、君のことを名指して連れていく。ある朝、街にサイレンが鳴り響いて、学校も何もかも、日常が非日常に塗り替わる。そんな妄想したことない？ 本を読んでいる間、君はこの世界から消える。旅に出よう。本はどこにでも連れて行ってくれる。涸れ果てそうな勇気を誰かのためにふり絞る。財布と相談しながら明日はどこで夜をしのぐか考える。君は小説の中に君を見る。いま君が生きている世界だけが世界ではない。それはバス通りから一本入ったところにあるかもしれない。君はどこにでも行ける。

文のやわらかさ：夏の庭 > 深夜特急 > 十二国記

五十嵐宥一先生 『ドリームバスター』 宮部みゆき/著 徳間書店 （購入予定）

あなたは最近どんな夢を見ましたか？もう一度見たいと思うような楽しい夢。ハッと飛び起きるほど怖い夢。そんな夢の中でのあなたを救い、共に闘ってくれるドリームバスターの冒険の物語です。

大森優人先生 『「静かな人」の戦略書』 ジル・チャン/著 ダイヤモンド社（購入予定）

大森先生は定期的に本を買うようにしているのですが、その中で最近買った本を紹介します。著者のジル・チャンさんは、コーヒーを買ったときのお釣りが間違っている、それを言い出せないほど、おとなしくて恥ずかしがり屋の女性です。この本では、「静か」＝「冷静に物事を捉え、判断する力」と考え、日常生活の様々な場面での考え方や行動の取り方を教えてくれます。聞く力、気配り、謙虚さ、観察眼、、、など、人としてあっていいな～と思う力が得られそうです😊

山田真理子先生 『タスキ彼方』 額賀滯/著 小学館 913/又

情熱が繋いだ「箱根の」タスキ

新米駅伝監督・成竹と、箱根駅伝に全く興味がない学生 No.1 ランナー・神原が、ボストンマラソンでとある選手から手渡された、戦時中の日本人による手記。ポロポロのその日記には「幻の箱根駅伝」と呼ばれた大会にまつわる当時の学生たちの熱き想い、日本軍部・GHQを相手取った必死の取組が詳細に記録されていた。

今年で100回目を迎えた「箱根駅伝」という伝統が、戦禍をくぐり抜けてどのようにして現代に繋がったかを、史実を基に、現代と過去を行き来しながら綴られる物語です。私はこの作品から、機転と情熱があれば「学生」だって、人の心を動かして世の中を変えられると学びました。戦争という、冷たく悲しい時代に諦めることなく、学生たちが必死の思いで繋いだからこそ、令和の今もこれからも続く箱根駅伝を、来年も楽しみに応援したいと思います。

伊藤万里奈先生 『精霊の守り人』 上橋菜穂子/著 偕成社 913/ウ

人の命を助けることを生業としているバルサが橋から落ちた皇子を助けたところから話が始まります。みな望む、望まないに関わらず、与えられた過酷な運命に翻弄されながらも、他者を思い、他者を守りながら強く生きている姿に感動します。私もバルサのような視野が広く、「かっこよくて頼もしい人」になりたい！と思いました。

アニメや実写ドラマなどにもなっています。興味のある人はぜひ見てください。

南木夏実先生 『はじめてのおつかい』 筒井頼子/さく 林明子/絵 福音館書店

『からすのパンやさん』 かこさとし/作 偕成社

☆おすすめの絵本です！

まず、2冊とも絵がかわいい！！優しいタッチで書かれています。『はじめてのおつかい』は、5歳の女の子が1人でおつかいに行くお話。不安やドキドキが上手に表現されています。

『からすのパンやさん』は、とある森のからすの世界のお話。5羽のあかちゃんが生まれたパン屋さん。忙しくてパンが売れなくなってくるけど・・・。登場するパンがどれも美味しそう。両方とも対象は3～6歳くらいです。ぜひ読んでみて下さい。